



35. 北海道支部での 自然災害伝承碑の活動報告

倉橋稔幸(寒地土木研究所)、
北海道自然災害史研究ワーキンググループ(北海道支部)

「北海道自然災害史 研究ワーキンググループ」

- 北海道支部は北海道応用地質研究会とともにワーキンググループを令和3年6月に設置した¹⁾。
- 令和5年7月から活動は2期目となり、委員20名に国土地理院北海道地方測量部のオブザーバー1名を加え、総勢21名で**自然災害伝承碑等**の調査及び研究に取り組んでいる²⁾。
- 本ワーキンググループは、以下の6つの活動に取り組んでいる。
 - ① 自然災害碑等の事例収集及び現地調査
 - ② 自然災害碑等に関する情報の集積、分析及び公開
 - ③ 日本応用地質学会本部災害地質研究部会との連携
 - ④ 機関誌、シンポジウム、講習会等による会員への情報発信
 - ⑤ 防災教育としてのアウトリーチ活動
 - ⑥ その他の必要な事項

調査及び研究の対象範囲

自然災害碑等

N=128件

「自然災害伝承碑³⁾」

石碑、モニュメント、完成・竣工記念碑、慰霊碑、鎮魂碑、顕彰碑等(86件)

このうち地理院地図掲載は
44件

「自然災害の伝承要素が明確ではないが、自然災害にまつわる有形のもの」

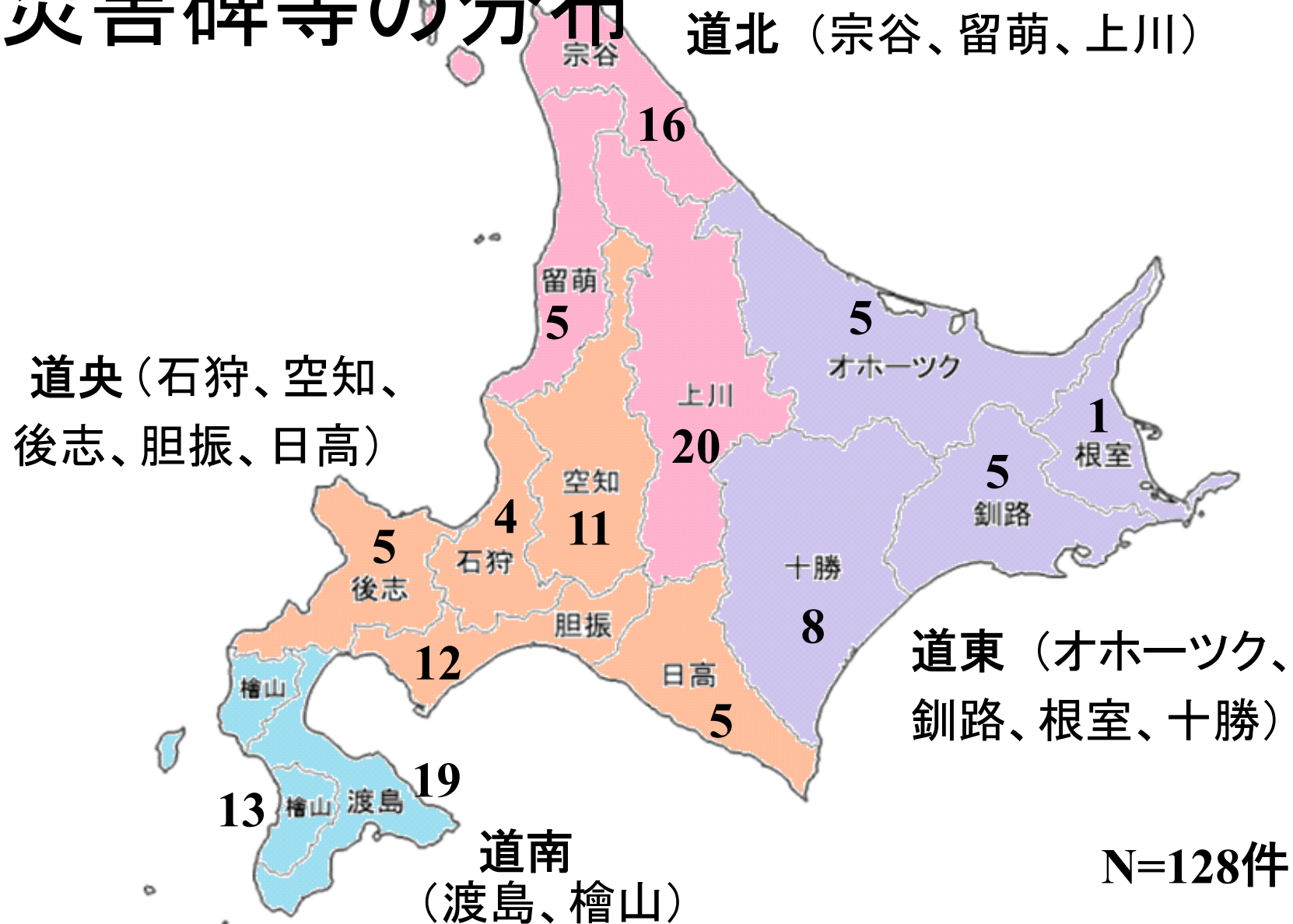
事業の完成・竣工記念碑、個人を祀った慰霊碑、記念館、地蔵、寺社等(40件)

◆「自然災害伝承碑」とは、過去に発生した自然災害(洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害等)の教訓を後世に伝えようと先人たちが残した**独立した構築物**であることを基本とする恒久的な石碑やモニュメントで、過去に発生した**自然災害に関する発生年月日、災害の種類や範囲、被害の内容や規模、教訓が記載**されたもの³⁾

「自然災害にまつわる
無形のもの」

言い伝え、伝承行事(0件)

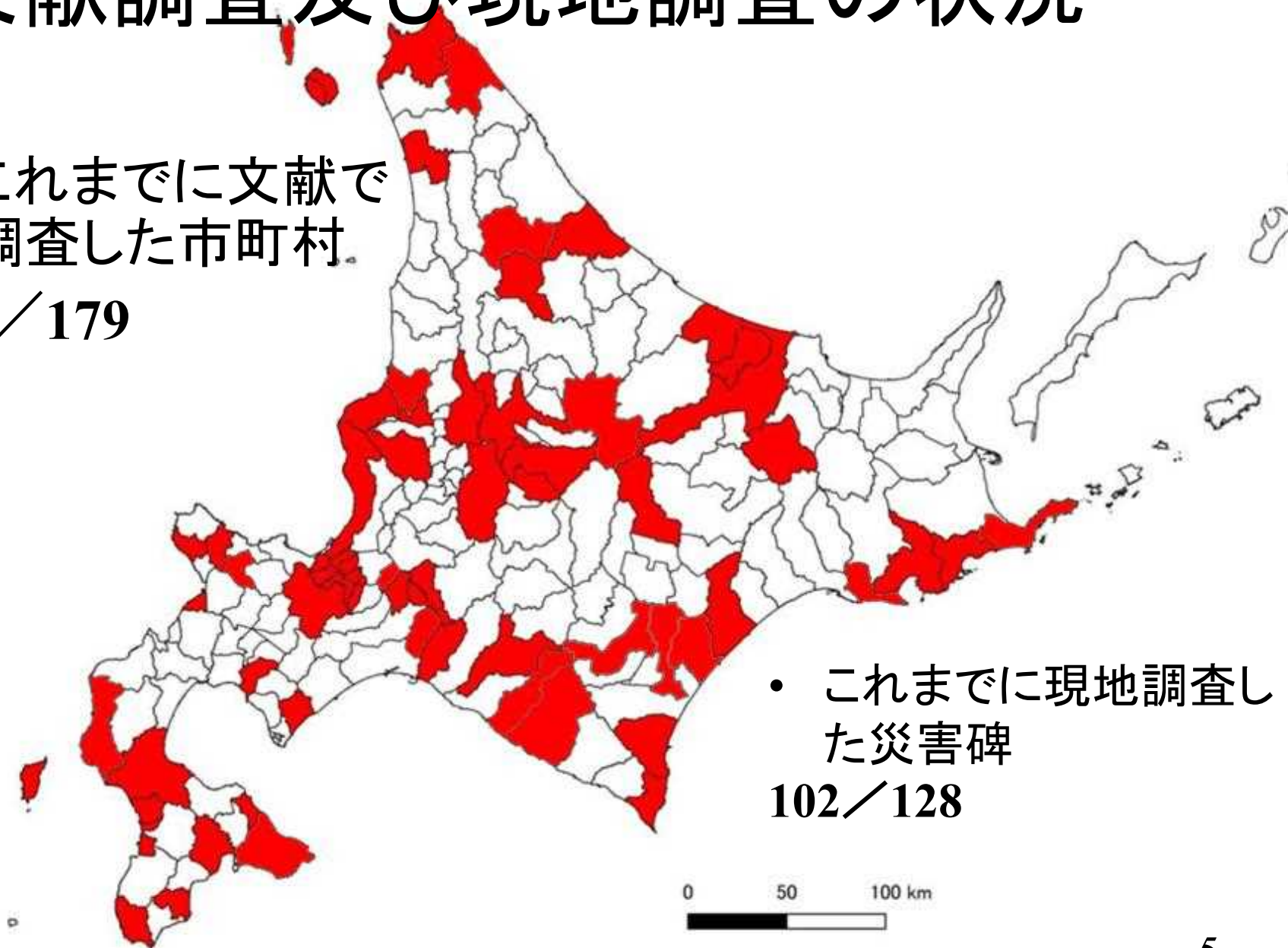
災害碑等の分布



文献調査及び現地調査の状況

- これまでに文献で調査した市町村

62／179

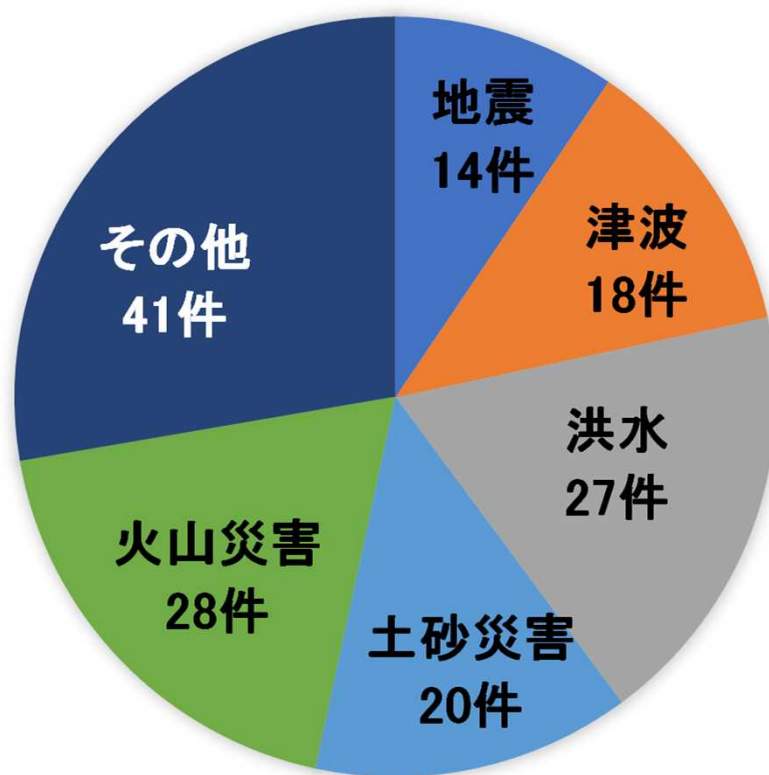


- これまでに現地調査した災害碑

102／128

自然災害伝承碑の災害分類内訳

- 「火山災害」、「洪水」、「土砂災害」の順に多い。
- 「その他」には、融雪泥流、雪崩及び吹雪等の雪氷や融雪等の積雪寒冷地特有の誘因によるものが多いことが特徴である。



地震災害の 主な災害碑



平成30年北海道胆振東部地震厚真町慰霊碑
(新妻委員撮影)



平成5年北海道南西沖地震(1993年)
時空翔(奥尻町)(田近委員撮影)



平成30年北海道胆振東部地震
厚真川竣工記念碑(厚真町)
(松井委員撮影)

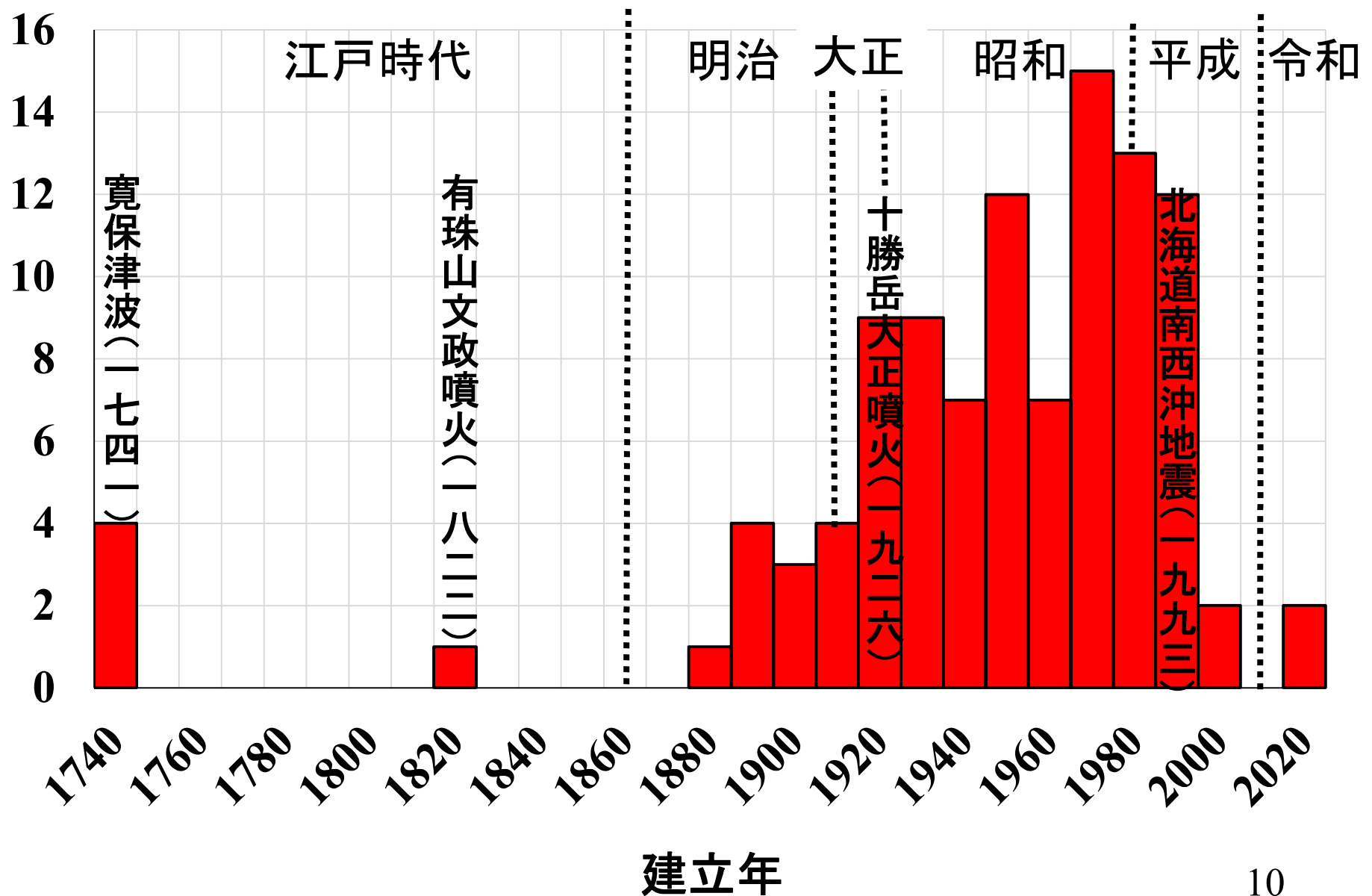
火山災害の 主な災害碑



積雪寒冷地の 災害による災害碑



件数 災害碑の建立推移



調査成果の普及活動(1)

支部における情報発信

- 北海道支部は、年2回、機関誌「EPOCH」を発行している。「北海道の自然災害伝承碑」をこれまで4回にわたり連載し⁴⁾など、地域の自然災害碑等を紹介している。
- また、支部会員向けの技術講習会で災害碑を題材として利用するなど、会員へ情報発信し、会員の意識向上に役立てている。
- その他、支部会員以外にも北海道開発局、北海道警察、全地連、建設諸団体等の講習でも題材として利用し防災への啓蒙を図っている。



令和4年度技術講習会

調査成果の普及活動(2)

地理院地図への反映

- 北海道における自然災害伝承碑の地理院地図への登録件数は令和6年10月1日時点で44件である。北海道の災害碑の多くは明治以降に建立されており、災害碑の数が他県に比べて少ないことが背景にあると思われる。
- 本ワーキンググループに北海道地方測量部からオブザーバーとして参加いただき、調査成果を情報共有している。令和5年度には津別町の「造林殉職者慰霊碑」が新たに地理院地図に登録されるなど、地理院地図に調査成果を反映することができた。また、北海道開発局にも情報提供することで、開発局が直轄事業に関わる災害碑の登録を市町村に働きかけ地理院地図へ反映できた。2年前に比べて10件程度の登録が増えた。



造林殉職者慰霊碑(津別町)
(田近委員撮影) 12

調査成果の普及活動(3)

NIPPON防災遺産への取り組み

- 内閣府及び国土交通省は、令和6年5月から地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを「NIPPON 防災資産」(以下、「防災資産」と略す。)として認定する制度を新たに創設した。北海道から、「洞爺湖有珠火山マイスター」(洞爺湖町)、「奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊」(奥尻町)、「厚真町震災学習プログラム」(厚真町)の3件が認定された⁵⁾。
- 本ワーキンググループは、北海道開発局に調査リストを提供し、候補の選定に役立てていただいた。
- 防災遺産の対象は、自然災害に関わる施設や行事等としている点において、本ワーキンググループの「自然災害碑等」への取り組み方針とも合致する。

まとめと今後の課題

本報告の結果は、以下のようにまとめられる。

- 北海道の自然災害碑等は、江戸時代に和人が入植した道南に多く、明治以降に北海道開拓の進展とともに増えた。また、火山災害、洪水、土砂災害の順に災害碑が多いが、雪氷や融雪等の積雪寒冷地特有の誘因によるものも多い。
- 北海道地方測量部及び北海道開発局との情報共有により、地理院地図への自然災害伝承碑登録に反映することができた。

引用文献

1. 国土地理院(2024): 自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版, 31p., https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html.
2. 倉橋稔幸(2021): 北海道自然災害史研究ワーキンググループの設立について, EPOCH, 日本応用地質学会北海道支部・北海道応用地質研究会, No.83, pp.20-23.
3. 倉橋稔幸(2023): 北海道自然災害史研究ワーキンググループ(第2期)の発足について, EPOCH, 日本応用地質学会北海道支部・北海道応用地質研究会, No.87, pp.16-17.
4. 中田光治・倉橋稔幸・仁科健二・大浦宏照(2023): 新連載: 北海道の自然災害伝承碑(第1回)「上富良野町・美瑛町の自然災害伝承碑」, EPOCH, 日本応用地質学会北海道支部・北海道応用地質研究会, No.87, pp.14-21.
5. 水管理・国土保全局河川計画課(2024): 日本防災資産 災害伝承に関する良質な施設や活動の普及拡大, <https://www.mlit.go.jp/river/bousai/bousai-shisan/index.html>.